

新学期のスタートです ～新学期準備から関係づくりへ～

新学期を控え、新しい子どもたちとの出会いを心待ちにしながら、特に、はじめて特別支援教育に携わる先生方は、期待と不安が入り交じった気持ちで新学期を迎えることと思います。子ども一人一人の実態やニーズが違うため、保護者と連携しながら、学校全体として、チームで協働して指導にあたることが大切です。

特別支援学校、小・中学校特別支援学級をはじめ、通級による指導や、特別な支援が必要な児童生徒が在籍する通常の学級の担任の先生などにとって、4月当初は、昨年度までの引き継ぎを踏まえ、児童生徒の的確な実態把握の上、今後の指導・支援について見通しておくことが必要です。今回は、新学期準備として、いくつかのポイントをあげています。

1 学級事務に関して準備、確認すること

当面の指導計画を立てるとともに、学級事務を確認しておくことが必要です。

児童生徒が安心して登校できるように、様々な準備に気を配りましょう。

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 指導要録の整備 | <input type="checkbox"/> 出席簿の作成（名前の漢字は正確に） |
| <input type="checkbox"/> 健康観察簿の準備（保健室と連携） | <input type="checkbox"/> 年間指導計画の作成 |
| <input type="checkbox"/> 週時程表の作成 | <input type="checkbox"/> 個別の指導計画の作成 |
| <input type="checkbox"/> 教科書、教材・教具の準備 | <input type="checkbox"/> 連絡帳の準備 |
| <input type="checkbox"/> 教室環境の整備 | <input type="checkbox"/> ロッカー、靴箱、傘立て等の準備と表示 |
| <input type="checkbox"/> 文房具の数や設置場所の表示 | <input type="checkbox"/> 学級だよりの作成 |
| <input type="checkbox"/> 交流及び共同学習の打合せ | <input type="checkbox"/> 参観日、家庭訪問の計画 |
| <input type="checkbox"/> 特別支援学校学習指導要領、解説（総則編、自立活動編、各教科等編）の確認 | |
| ※その他必要に応じて | |

2 確認すること

- | |
|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 児童生徒の実態把握 |
| ・ 障害や健康面の状態 |
| ・ 個別の教育支援計画、個別の指導計画、合理的配慮、指導要録 |
| ・ 前担任からの引き継ぎ |
| ・ 各種調査表、医療機関等の所見、検査結果等のチェック |
| ・ 家庭環境、緊急連絡先 |
| <input type="checkbox"/> 教室の安全点検 |
| ・ 机、いすの高さ・広さ等の調節や破損の有無 |
| ・ 落下物、突起物、窓の周辺等 |
| <input type="checkbox"/> 通学路や通学方法 |
| ・ 登校班、保護者の付き添いの有無 |
| ・ スクールバス利用の有無や通学上の安全面の特記事項 |
| ・ 子どもの動線に応じた配慮の有無や危険箇所等 |
| <input type="checkbox"/> 下校後の動き |
| ・ 児童クラブ、放課後等デイサービス等の利用 |
| ※その他必要に応じて |

3 始業式・入学式に関すること

児童生徒が安心して参加できるように、また保護者の不安や緊張等を和らげるように、そして、担任との関係づくりの第一歩となるようにしましょう。

□ 保護者との確認

- ・健康面についての配慮事項
- ・これまでの行事への参加の様子（うまくいった事例、大勢の中での様子等）
- ・事前リハーサルの有無と実施が必要な場合は方法や配慮内容等
- ・式のプログラム
- ・待機場所や仕方、入場方法
- ・座席
- ・返事の仕方や支援の方法、動線
- ・支援者の必要性和位置
- ・ハプニングの際の対応
- ・支援ツール（見通しカード、動きの手がかりとなる目印等）の必要性の有無

□ 学校全体での共通理解と準備

- ・子どもの個々の実態（障害特性や状態、式参加に関して予想される状態等）
 - ・登校後の動き（子どもの迎え方、靴箱から教室に移動するまでの配慮の有無）
 - ・式前後の詳細な動き（入退場の方法や支援、教室への移動、待機）
 - ・交流学級との関わり ※特別支援学級の場合
 - ・保護者の動き等
 - ・プログラムに関する視覚支援の有無や方法
 - ・音楽等に関する配慮の有無や方法
 - ・座席、支援者の有無と位置、前後左右の子どもの確認
 - ・呼名者の確認、呼名の仕方
 - ・パニックや発作等への対応
 - ・式終了後の動き（特別支援学級か交流学級か、支援者の有無）※特別支援学級の場合
 - ・交流学級との関わりのもち方
（配布物等の置き場所は特別支援学級か交流学級か等）※特別支援学級の場合
- ※その他必要に応じて

4 学級での準備に関すること

学級は児童生徒が日々の学校生活を行う中心的な場所です。望ましい学級集団、個々の能力の伸長のため、意図的・計画的に学級経営を進めましょう。

□ 児童生徒理解

- ・障害特性と個々の児童生徒の理解
- ・好きなこと・苦手なこと
- ・学習の様子（学力、支援内容等）
- ・対人関係、コミュニケーション 等

□ 学級目標の設定（めざす子ども像）

- 教室環境整備
 - ・学習しやすい動線（配置の工夫）
 - ・教材・教具等の物品準備
 - ・片付ける場所と表示の工夫
 - ・刺激になる音・光・掲示物などの整備
 - 生活のリズムをつくる
 - ・登校後の動き
 - ・朝の会・帰りの会の流れ
 - ・当番活動や役割分担
 - ・給食、掃除その他の流れや方法
 - ・生活や学習のルール
 - スケジュールの作成と提示の工夫
 - ・年間予定や月予定などおおまかな予定の提示
 - ・週予定（時間割や週行事）の提示
 - ・日課（登校から下校までの流れ）の提示
 - ・1時間の学習内容の提示
 - 周囲の児童生徒への理解
 - ・集団づくり
 - ・障害理解（※本人・保護者の願いを尊重）
 - ・多様性を尊重する心の育成
 - 学級通信の発行
 - ・関係づくり
 - ・理解啓発
- ※その他必要に応じて

5 指導計画に関すること

児童生徒の障害の状態や行動特性などは、一人一人異なっており、指導内容や指導方法も異なります。的確な実態把握を行い、1年間を見通して計画を作成しましょう。

- 学級経営案
 - ・学級目標（めざす児童生徒像）
 - ・学級経営方針（重点目標、達成目標 等）
 - ・学級の実態把握（構成、個々の児童生徒の実態）
 - ・経営の具体的事項（学習面、生活面、特別活動、行事・集会への参加の仕方、健康・安全面、交流及び共同学習の方針、家庭・地域との連携 等）
 - 実態把握
 - ・医学的な情報（身体機能、病気 等）
 - ・保護者からの情報（生育歴、家庭環境、本人・保護者の願い、配慮事項 等）
 - ・教育的な情報（基本的生活習慣、学習上の配慮事項、興味・関心、対人関係、コミュニケーション、身体の動き、心理的な状態 等）
 - ・心理学的な情報（知的発達の状態、社会性の発達の状態、運動機能の発達の状態 等）
- ※その他必要に応じて

□教室環境

- 活動の内容と場所を一致させる
- 活動しやすい動線
- わかりやすい置き場所（片付ける場所）と表示
- 活動の流れの表示（手順の提示）

□教科用図書

- 当該学年の教科書
- ☆本（ほしぼん：文部科学省著作教科書）
- 絵本等（学校教育法附則第9条に規定する教科用図書）

□教材・教具

- 児童生徒の指導目標を達成するためのもの
- 児童生徒の発達の状況や学習の状況に即したのもの
- 児童生徒が興味・関心をもち、主体的に学習を進めるもの 等

6 校内支援に関すること

特別支援教育の全校的な教育支援体制を確立するためには、校長がリーダーシップを発揮し、校長自身が特別支援教育に関する理解を深めていく必要があります。すべての教員が障害について正しい理解と認識を深められるように連携を図りましょう。

□校内委員会

- 児童生徒の学習上・生活上の困難の状態と教育的ニーズの把握
- 支援内容の検討と評価
- 外部関係機関への連携の検討
- 校内研修計画の企画・立案 等

□チーム・ティーチング

- 複数の教員が役割を分担し、実践指導
- 児童生徒の実態を多くの視点から理解
- 個々の教員の専門性や特性を生かし、創造的な授業を展開 等

□専門スタッフの活用

- 特別支援教育支援員
（日常生活支援、学習支援、移動等の支援、健康・安全確保、学校行事の際の支援 等）
- スクールカウンセラー
（カウンセリング、ストレス等への対処方法に関する教育プログラムの実施、教職員への助言、保護者への助言や援助、教員へのカウンセリングに関する研修）
- スクールソーシャルワーカー
（福祉に関する課題に対する働きかけ、関係機関とのネットワークの構築・連携・調整）
- 看護師（医療的ケアに関する対応）
- 就労支援コーディネーター（キャリア教育、就労支援に関する関係機関との連携）

7 保護者との連携

保護者や家庭との連携・協力はとても重要です。早めに連絡、相談、確認をし、お互いの思いを正しく伝え合うことで、保護者との信頼関係が高まります。児童生徒の将来を見据え、共通理解を図りましょう。

- 保護者の気持ちや願いへの共感
 - ・保護者のこれまでの子育てへの敬意とねぎらいを持って接する
 - ・苦勞、悩み、不安への共感的理解
- 児童生徒の障害理解と受容
 - ・保護者の自分の子どもへの障害や発達状態への認識や受け止め方を理解
- 連携の方法
 - ・連絡帳、学級通信、授業参観、学校行事、学級懇談会、家庭訪問 等
- 連絡帳
 - ・成長やがんばりの様子をわかりやすく記述
 - ・本人や保護者を励ますような記述
 - ・丁寧に、簡潔に記述
- ポジティブな話し合い
 - ・配慮事項ばかりでなく、児童生徒の得意なこと、好きなこと、興味・関心のあることなど情報を得る
 - ・指導・支援については、資料を使う等、具体的でわかりやすく説明

<まとめ>

学校は、児童生徒にとって伸び伸びと過ごせる楽しい場所でなければなりません。児童生徒一人一人、興味や関心などが異なることを前提に、児童生徒が自分の特徴に気づき、よいところを伸ばし、自己肯定感をもちながら、日々の学校生活を送ることができるようにしましょう。

学級経営を行う上で最も重要なことは、確かな児童生徒理解です。児童生徒の気持ちを理解しようとする学級担任の姿勢は、児童生徒との信頼関係を築く上でとても重要であり、愛情をもって接していくことが大切です。

また、教師の意識しない言動や価値観が、児童生徒に感化を及ぼすこともあり、見えない部分での教師と児童生徒との人間関係にも十分配慮する必要があります。

学級担任は、校長、教頭の指導の下、他の教職員と連携しながら学級経営を進めることが大切です。

<参考資料>

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 平成29年7月
- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編 平成29年7月
- 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する 教育支援体制整備ガイドライン
～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～
文部科学省 平成29年3月
- 小学校・中学校教職員のための特別支援教育ハンドブック 兵庫県立特別支援教育センター 平成31年3月
- 特別支援学級担任のためのハンドブック改訂版 岡山県総合教育センター 平成30年4月
- 特別支援学級担任のための「ハンドブック」 宮崎県教育研修センター 平成27年3月